

報道関係者各位
プレスリリース

オリザ油化株式会社

**「オリザセラミド®」, 「藤茶エキス」, 「トマト種子エキス」の研究成果について、
第76回日本栄養・食糧学会大会で演題発表！**

オリザ油化株式会社（本社：愛知県一宮市，代表取締役：村井弘道，以下「オリザ油化」）は，米由来セラミド素材であり，機能性表示食品受理実績もある保湿素材「オリザセラミド®」，2021年に上市した新製品であり効果的なアプローチによって抗肥満，肝保護作用を発揮する「藤茶エキス」および肌弾力の維持に加えてバリア機能の改善作用も有する「トマト種子エキス」について，研究データの構築を続けている。

この度，オリザ油化はこれら3つの素材について，最新の研究データを6月10～12日に開催された”第76回日本栄養・食糧学会大会”にて演題発表した。

「オリザセラミド®」については，同素材から第2の保湿成分として発見されたβ-シトステロールグルコシド（BSG）の肺炎抑制作用について発表した。BSGは同社によるこれまでの研究によって，「オリザセラミド®」に副成分として含まれ，肌の保湿に寄与する角層セラミドを増加させることが明らかとなり，論文発表もしている。今回発表した内容は，BSGをインフルエンザウイルス感染マウスおよびリポポリサッカライド（LPS）誘発肺炎マウスに経口投与した際の作用を評価したもの。実験の結果，インフルエンザウイルス感染マウスにおいては，BSGの投与による生存日数の延長が確認された。また，LPS肺炎マウスにおいては，肺胞への好中球の顕著な浸潤がBSGの投与によって抑制されていることがわかった。これらの結果より，BSGは肺炎による好中球の過度な浸潤を抑制することで，インフルエンザウイルス肺炎マウスにおいて延命効果を示したと考えられた。

「藤茶エキス」については，エキスおよび含有成分のアンペロプシンの抗肥満および肝保護作用について発表した。「藤茶エキス」は2021年に上市した同社の新製品であり，規格成分としてアンペロプシンを50%以上規格している。今回発表した内容は，「藤茶エキス」およびアンペロプシンの抗肥満および肝保護作用について，各種動物モデルおよび細胞試験によって明らかにしたもの。抗肥満作用については，高脂肪食飼育マウスおよびオリーブオイル負荷マウスで評価した結果，「藤茶エキス」およびアンペロプシンの投与による体重，肝重量および腹部脂肪重量の増加抑制作用や血中トリグリセリド上昇抑制作用が確認された。また，細胞試験においても有意な脂肪分解促進作用が確認された。一方，肝保護作用については，アルコール性および非アルコール性肝障害モデルマウスのいずれ

においても、「藤茶エキス」およびアンペロプシンの肝障害抑制作用が確認された。さらに、アルコール性肝障害モデルマウスでは、肝臓中トリグリセリドの増加抑制作用も認められた。これらの結果より、「藤茶エキス」およびアンペロプシンは脂質の吸収抑制、分解促進による抗肥満作用および肝保護作用を有することが明らかになった。尚、同社はこれらの研究結果について、既に著名な科学雑誌「*molecules*」より論文発表している。

「トマト種子エキス」については、エキスから単離されたサポニン成分の表皮保湿作用について発表した。「トマト種子エキス」は、同社が2018年に肌の弾力・ハリ改善素材として上市した製品であり、臨床試験によって肌の弾力維持作用も証明されていることから機能性表示食品申請のためのSR資料も整備されている。今回の発表では、エキスに含まれる成分のうち、規格成分であるリコペロサイドHを含む7種のサポニン成分の表皮保湿作用について発表した。ヒト表皮三次元培養モデルを用いた評価の結果、7種のサポニン成分のうちリコペロサイドHのみが角層セラミド含量を増加させることによって培養モデルの経皮水分蒸散量を減少させることがわかった。さらに、各種動物モデルの評価によって、リコペロサイドHは抗炎症作用も有しており、これらのメカニズムによって表皮保湿・バリア機能に寄与することがわかった。尚、同社はこれらの研究結果についても、既に著名な科学雑誌「*molecules*」より論文発表している。

同社では、これらの素材の新規機能において、新規の機能性表示食品も視野に入れた研究を引き続き進めており、得られた研究結果を迅速に顧客に発信していくと共に、アカデミアの集う学会等の場でもイニシアチブがとれるような研究を加速させていきたい考え。

<学会発表について>

大会：第76回日本栄養・食糧学会大会（現地開催：神戸）

日時：2022年6月10日(金)～12日(日)

演題名：①「米油バイプロダクト由来 β -sitosterol 3-O-glucoside のマウスにおける肺炎抑制作用」
②「藤茶エキスの抗肥満および肝保護作用」
③「トマト種子サポニン lycoperside H の角層セラミド増加による表皮保湿作用およびステロイド様抗炎症作用」

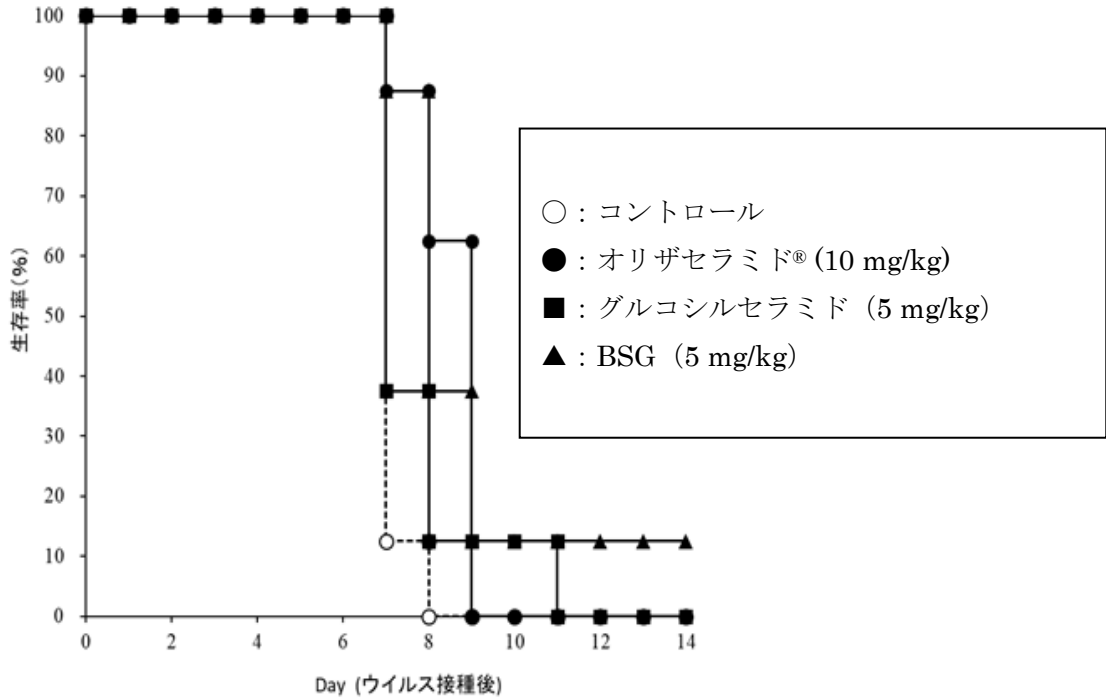


図 1. BSG の経口投与によるインフルエンザウイルス感染マウスの延命

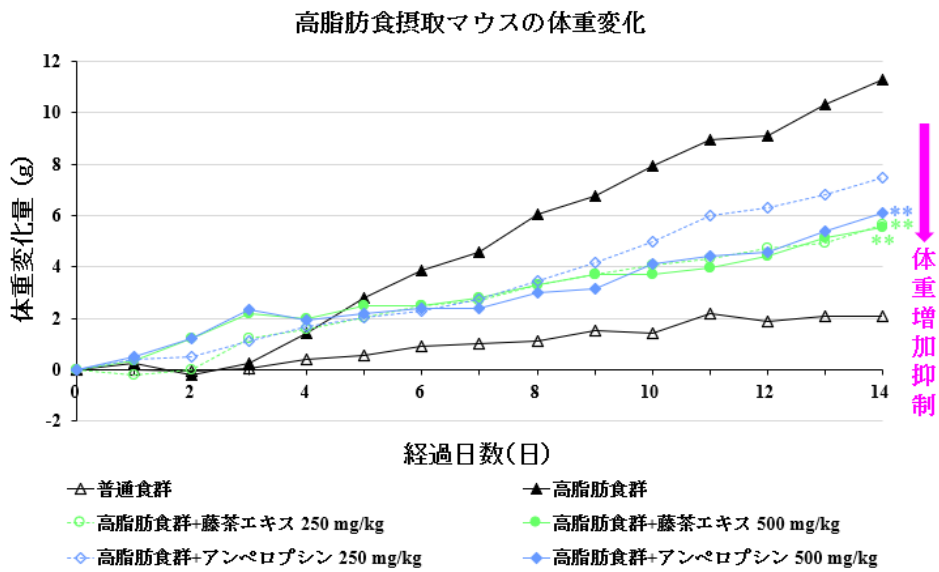


図 2. 藤茶エキスまたはアンペロピシンの高脂肪食マウスにおける体重増加抑制作用

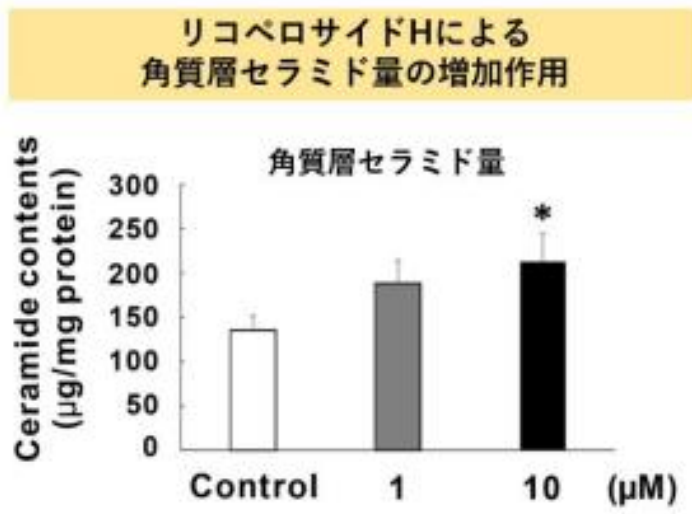


図3. リコペロサイドHによる角層セラミドの増加作用